

愛知大学設立趣意書

わが日本は長期にわたる今回の戦争によって、物質的・精神的に荒廃させられ、特にその結果は惨憺たる敗戦を招き、まさに壊滅の危機に立つといっても過言ではない。

いま、このような壊滅を免れようとするならば、この事態を到来させた古き日本の誤った指導と積み積もった弊害を一掃し、新しい日本として更生する道を選ぶほかないのである。

実に新日本の進むべき方向は、旧来の軍国主義的、侵略主義的などの諸傾向を一度に投げ捨て、社会的存在の全範囲にわたって民主主義を実現し、自らを文化、道義、平和の新国家として再建することによって世界の一員として、世界文化と平和に貢献できるようなものとするものでなければならない。

...

我々は愛知大学設立趣意書に込められた悔しさと決意を噛み締めなくてはならない岐路に立っている。

軍国主義は突然にはやって来ない。健全な政治の土台である民主主義が少しずつ少しずつ掘り崩され、やがて国民が目隠しをされたまま誘導される。そして気がついた時には何も言えない社会になっている。再びこのようなことがあってはならない。声を上げなければ将来に禍根を残すことになる。

自衛隊が侵略する軍隊として変貌しつつある今

メディアが真実を伝えなくなり、国と国との対立を煽りつつある今

教育の国家統制が強められ、教育が国策の道具になりつつある今

そして

愛知大学においても平和を語ることができなくなりつつある今